

「知識よりも知恵」

臨床で、「どうしよう、。」と支援者が頭を悩ます場面では、山崎様のおっしゃる通り「知識より知恵」が必要なことが多いのかなあと思いました。

老夫婦二人暮らしなのだけど、毎日お米を10合炊いている奥さんに頭を悩ませているご主人。

その悩みは、「認知症は、進行していきます」「認知症は、脳の海馬という部分が、、、」というような医学的な、病理学的な知識では、解決できるかということ、難しいかもしれない。

そういう解釈でよいでしょうか？

最近では、認知症の知識は医学的なものだけでなく、医学に基づいた認知症の方と関わるためのケアの知識も多く学べるようになってきています。まさに、山崎様をはじめ先人の方々が取り組んでくださったおかげです。先ほどのような「どうしよう、、、。」に直面した時に、全くの0から知恵を絞らなくても良いのは助かります。さらに、誤った方向性でケアが進んでしまわない抑止力にもなります。

まだまだ「認知症になったら終わり」「認知症になったら迷惑になる」「認知症の人はお世話が必要」等、誤った認識が蔓延しているので、自分自身もアップデートして正しい知識を身につけていきたいものです。

しかし、不安をあおる広告のほうが効果が大きく、視聴率や購買率が高いと心理学で習った覚えがあります。不安や心配のほうが、耳を傾け、心に響くのも納得ですが。。

「原体験」

山崎様は、学生時代の患者さんとの出会いが原体験とお話がありました。とても興味深い内容でした。山崎様をここまで突き動かす、原動力は何か？ その一部分を垣間見れたように思います。私自身も、なにかに迷ったときは、原体験を思い出して、初心にかえろうとおもいました。

「知識や技術より人」

認知症について十年前より今のほうが、医学的に解明されていることも多いだろうし、検査、治療、ケアも発展しているのだらうと思います。だけれども、それを担う人、地域がなかなか増えていかない。というよりも、医学の発展に人の文化の発展が追いつけていけないのかもとも思います。

時代に取り残されないように、アップデートしつつ、まずは目の前の方の支援をコツコツと積み上げていきたいと思っています。

貴重なお話ありがとうございました。